

(国語科)

自分の思いを発信できる子どもの育成
～確かな「読む力」を育む国語科学習指導を通して～

大阪市立野田小学校 研究部

1. 主題設定の理由

国語科における改善の基本方針として、「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身につけること、我が国の言語文化を享受し継続・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容を改善する。小学校では、日常生活に必要な基本的な国語の能力を身につけることができるよう改善する。」となっている。

つまり、言語活動を充実させ実生活で生きる力の育成をすることをめざしている。そして、単元を通して言語活動を位置づけ、子どもたちの「国語が大好き」「本を読むことが楽しい」につながるよう工夫していくことが重要である。

本校の国語学習の実態として、長文を根気よく読むこと、起承転結の整った文章を書くこと、物事を上手に説明すること等が苦手で、基本的な読み書き能力が不足していると言える。また、読書に親しんでいる児童も高学年に進むほど少なくなっている現状がみられる。そこで、全校で読書に取り組んだり、全体で音読に取り組んだり、全体の場で話す事を意図的に設定することにより話すことに対してある程度の向上がみられた。しかし、決められたことや答えのはっきりしていることについては話す事が出来ても、課題に対する自分の考えを構築し、それを相手に伝えるまでには至っていない。

そこで、本年度も、これまでの研究に重ねて、国語科を研究教科に設定した。

まず、学ぶ力を高めるためには、言語の力を養うことが大切かと考えられる。どの子ども、主体的な意志をもって話しを聞き合う学習空間の創造のために、とても大切な言語活動が「対話」をすることである。対話は、自分の思いや考えを話すことによって少しずつ明確になっていく過程で自然に自分の考えを素直に話せるようになることが大切である。

そのために、一人一人の言語の力を高め、言語に着目した学びの充実を図っていききたい。さらに、子どもが身に付けた言語の力を生かすことにより、集団の学ぶ力も育つと考えられる。また、個が深まる学習課程を実践することにより、自分の思いを生き生きと表現できる子どもの育成につながる。

次に、付けたい力は読解力である。説明文では互いに表現しあう中で、説明内容だけではなく、説明方法や論理に着目しながら読めるようにさせたい。さらに、自分なりの考えや疑問をもって読み進め、得た情報をもとに自己の考え、論理、表現を構築していき発信できるようにすることが重要である。

国語の授業を構成するについては、付けたい力を明確にし、子どもの言語活動と教材をどのように出会わせるかを考える。時間配分や「対話」活動など細部にまで整理する。その他、教材に合わせて、音読や書く活動、話し合い活動をどう組み合わせしていくかなどを考え計画し、授業改善を進める。

2. 研究の内容

(1) 研究の視点

- ① 説明文の教材を中心に、読む力の育成と基礎・基本の定着をはかる。
- ② 一人一人の言語の力を育てる授業づくりや学び合いを充実させる場の工夫をする。

(2) 指導の内容

① 読む力の育成と基礎・基本の定着の指導

○ ワークシートの活用

- ・文末表現の違いをとらえ、「問い」「答え」の文章を見つける。
- ・中心となる語句や文を使って、小見出しをつけたり、要約したりする力を育てる。
- ・絵や写真、図や表・グラフなどからも筆者の伝えたいことを読み取る力を育てる。

○ 読書活動の推進

- ・読書タイムや図書の時間の充実を図る。
- ・図書室や公共図書館を有効に活用する。

○ 学習プリントの活用

- ・学習内容プリントを作成し有効的な活用を図る。
- ・のびぐんタイムでの学びのスタイルを充実する。

② 自分の思いを表現する場の工夫

○ 対話型の言語活動を意識した学習活動の工夫

- ・話し手は、聞き手を意識して自分の思いを伝え、聞き手は話し手の思いを理解した上で自分の考えを述べる事で、自らの考えや集団の考えを発展させる。
- ・単元にふさわしい言語活動の位置づけ。
- ・自分の考えをもたせるための支援の工夫。

3. 研究授業

第1学年・・・のりものはかせになって、しょうかいカードをつくろう

「いろいろなふね」

第2学年・・・植物のひみつだよりを作ろう「たんぼぼ」

第3学年・・・はたらく犬リーフレットをつくろう「もうどう犬の訓練」

第4学年・・・助け合って暮らす生き物リーフレットをつくろう

「ヤドカリとイソギンチャク」

第5学年・・・和の文化説明会を開こう「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」

第6学年・・・未来の野田の町についてプレゼンテーションをしよう

「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」

4. 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ① 話したり聞いたりする「本の内容紹介」「朝の会、終わりの会等での1分間スピーチ」「調べ学習の発表」などの活動を積極的に取り入れた。その結果、子どもたちは、内容の構成に気をつけながら考えて話せるようになってきた。また、声の大きさや話す速さという技術的なことも少しずつ身につけてきた。
- ② 書く活動では、「要旨や要点をまとめる」「基本文型を使った文章づくり」などを中心に取り入れた。その結果、自分の考えが曖昧であったことが整理され明確になった。対話時に、自分の意見に自信をもって言えるようになってきた。
- ③ ワークシートの作成に検討を重ねた。書かせる内容を精選し、個に応じたワークシートを活用できるように、子どもたちの負担にならないように作成した。その結果、子どもたちは、自分の考えを整理しながら学習に取り組むことができた。